

気候変動影響への「適応」とは？

＜地球が暑くなっている＞

今、地球は少しずつ暑くなっています。

地球は太陽からエネルギーを受け取り、宇宙に返していますが、地球の大気に含まれる「温室効果ガス※」が、エネルギーを宇宙に逃がさないようにして、生き物が生活しやすい気温にしてくれています。

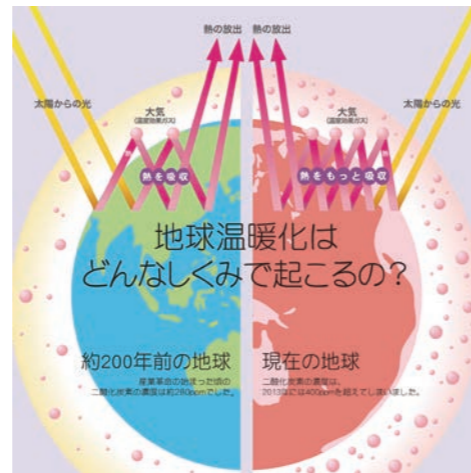
ところが、産業革命以降、私たちが石油や石炭などの化石燃料を燃やすことなどによって、地球の大気に含まれる「温室効果ガス」がどんどん増えています。「温室効果ガス」が増えると、大気中に熱がたまって暑くなりすぎてしまいます。これが「地球温暖化」です。
※温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスなどがあります。

＜大阪はより暑くなっている＞

過去100年間の気温の上昇量を比較すると、大阪は世界全体や日本全体よりも早いスピードで気温が上昇しています。日本全体より大阪の気温上昇が大きい理由は、地球温暖化に加えて、都市部においてヒートアイランド現象※が起きているからだと考えられています。

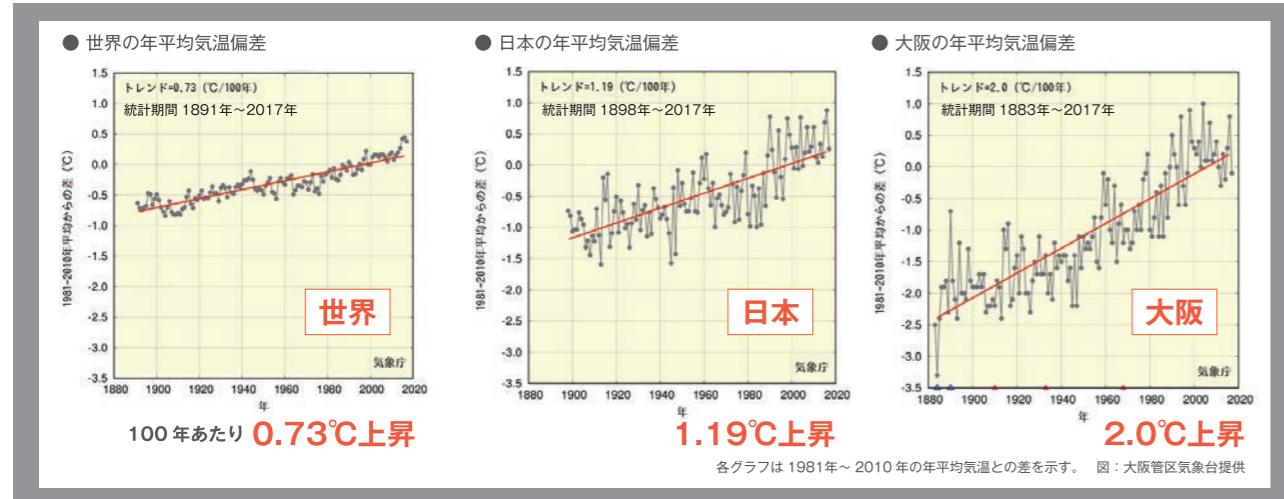
※ヒートアイランド現象とは、都市部の排熱や地表面被覆への蓄熱などにより都市の気温が周辺よりも高くなること。

100年で2℃という大阪の気温の上昇は、たいしたことないという印象を与えますが、猛暑日、熱帯夜などの増加をみれば、気温上昇リスクは一目瞭然です。

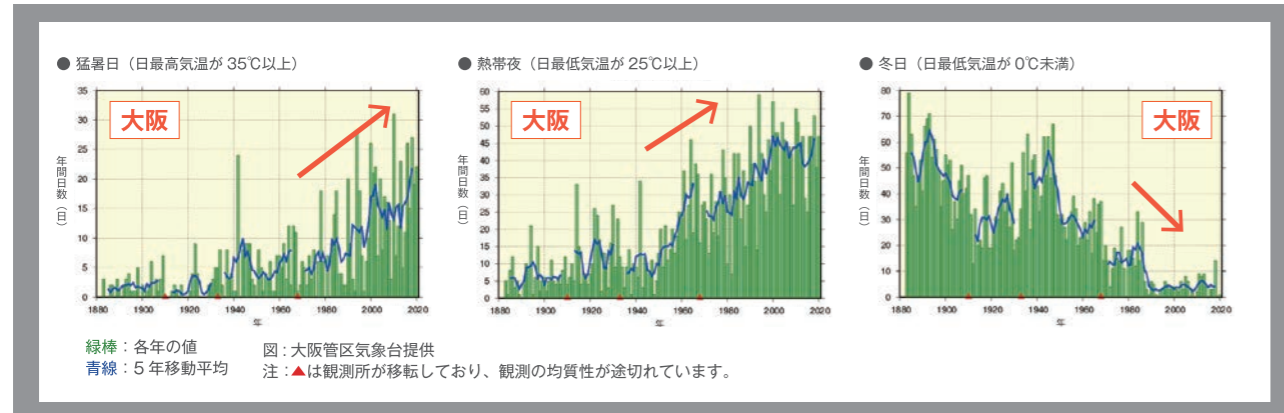


出典：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>)より

◎世界、日本、大阪の年平均気温偏差



◎大阪の猛暑日、熱帯夜の増加等



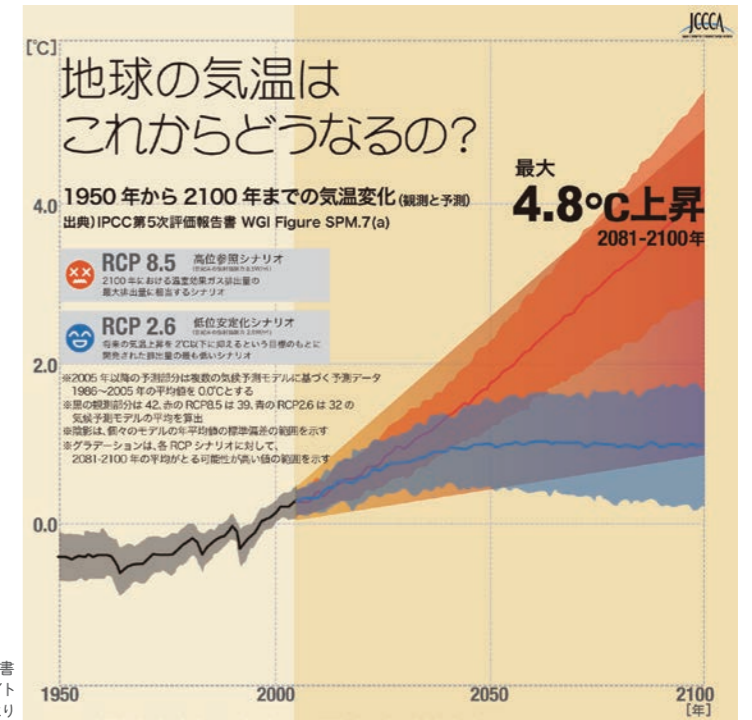
地球温暖化などによる気候変動の影響により、海面上昇、高潮被害、豪雨・洪水被害、インフラ機能停止、健康被害、食料不足、水不足、海洋生態系損失、陸上生態系損失などの問題が発生します。

＜これから気温はどうなるの？＞

現在、省エネルギーや太陽光・風力発電の活用など、温室効果ガスの排出を減らす取組みが世界中で進められています。

しかし、IPCC※によると現状を上回る対策をとらない(これまでと同様の取組みを続けた)場合、21世紀末の世界の平均気温(2081年～2100年)は基準年(1986年～2005年)よりも最大で4.8℃上昇すると言われています。

※IPCC：気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change)の略称。人為起源による気候変動、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として設立された国際機関。



緩和とは？ 適応とは？



気候変動による影響にどのように対応すればいいのか？まずは温暖化ができるだけ進まないよう、温室効果ガスの排出を減らす取組みが大切です。この考え方を「緩和」といいます。

まず「緩和」を進めた上で、それでも現在、または将来の発生が予想される気候変動の影響に備え、その被害を回避し、又は和らげ、もしくは有益な機会として活かしていくことがこれからは必要になります。

この考え方が「適応」です。

おおさか気候変動「適応」ハンドブック※をご活用ください。

※「適応」という考え方の普及を図り、府民の実践につなげていくためのハンドブック事例については、YouTubeでも配信しています。(P.15参照)

